



2018年5月20日 発行

<Gifu>Association of Medical Technologists

第56回岐阜県医学検査学会

平成 30 年 3 月 25 日 岐阜市 OKB ふれあい会館

実行委員長 公立学校共済組合東海中央病院 林 博之

3月25日に(日) 岐阜市 ふれあい会館にて第56回岐阜県医学検査学会が開催されました。 当日は年度末でご多忙の折、また例年より早く桜の見頃を迎え行楽にも適した週末に、130名を超える 参加をいただき盛況のうちに会を終えることができました。

教育講演をお願いしました岐阜大学病態情報解析医学教授 清島 満 先生にはご退任の最終講義となる時期に、これまで精度管理にご尽力いただいた事を含めた共用基準範囲の導入について、特に脂質についてのご苦労や注意点を教えていただきました。

市民公開講座は日本人に適した予防医学についての著書やテレビ番組「世界一受けたい授業」に出演された 奥田 昌子 先生をお迎えし、市民の方々32 名にも分かりやすいお話、多数の質問への解説をいただきました。

企業協賛セミナーは富士レビオ株式会社様、ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社様にご協力いた だきありがとうございました。

一般演題は、今回も若い先生方を中心に 15 演題の応募をいただき、そのうち半数がこれまで他県に比べ少なかった腹部体表超音波の演題だったことが印象的でした。

演者及び座長を引き受けていただいた皆様、実行委員の皆様、そして参加されました会員とご家族様に 感謝いたします。ありがとうございました。



人材育成部会担当

都道府県リーダー育成研修会と平成30年度初級・職能開発講習会 開催について

JA 岐阜厚生連 揖斐厚生病院 関敏秀



昨年度、岐臨技 理事役員を主体とした人材育成部会の部員として、都道 府県リーダー育成研修会、平成 30 年度 初級・職能開発講習会の実務委員 として参加させていただきました。

本研修会の目的は、日臨技執行部主導の「人材育成事業」組織強化ワーキングの活動としている事業、地域ニューリーダー育成の事業や初級・職能開発講習会、他団体との連携活動等の一環としての、各都道府県で活躍できる次世代のリーダー育成、卒後3~5年と早い時期から医療情報にも興味を持って、他職種連携の中で活躍できる臨床検査技師の育成を目的としていました。

その経緯の中で、講師は日臨技執行部より派遣頂き、都道府県リーダー育成研修会では、椙山広美副会長による「臨床検査技師の取り巻く医療状況の共有」。平成30年度初級・職能開発講習会では、横地常広副会長、深澤惠治執行理事による「医療現場が求める臨床検査技師のあり方・育成」について講演して頂くことができました。

また、都道府県リーダー育成研修会において、岐臨技 兼子徹会長による「一般社団法人としての岐 臨技の成立ちについて」講演を頂きました。

グループワークは、研修会・講習会共に企画し、都道府県リーダー育成研修会には、オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス株式会社 増本隆氏を迎え、企画マネジメントスキルの講習、各一人一人のプレゼンテーションを行いました。

初級・職能開発講習会では、3 つのテーマ ①スタッフの意識改革と組織強化、②業務体系の変革(受動から能動態へ)、③生涯教育の意義とあり方、の一つを選定し、各グループの発表を進行しました。

今回、私は実務委員ではありましたが、受講者からの意見・発想で、こちらが改めて気づかされる点 も多く、グループワークの重要性を再認識致しました。

双方のグループワークで取り上げられていた問題の一つで、「職場内・職種間でのコミュニケーションの難しさ」について共感しました。これについて、「コミュニケーションの重要性については、日臨技の 共通テーマである。」と横地副会長は提言されていました。

労働管理の人間関係論(メイヨー、レスリスバーガーのホーソン実験)においても、作業効率に重要な影響を与えるのは、作業環境ではなく労働者の心理的要因である。と提唱しています。簡単に言うと、会社で作った組織(フォーマル組織)より自然に発生した人間関係(インフォーマル組織)の方が、モラール(集団への帰属意識、士気、やる気、労働意欲)の向上には強く影響する。ということだそうです。

本研修会をきっかけに、コミュニケーション能力の向上が可能となれば、「他職種連携の中で活躍できる臨床検査技師の育成」も可能となり、生産効率・作業効率の向上も見込め、「医療現場が求める臨床検査技師」も可能となるのではと期待しています。



中部圏支部研修会を開催して

病理・細胞診部門の支部研修会は、メインテーマへ病理や細胞診、臨床医、最新のトピック等からアプローチし理解を深めていく、といった構成で行っていくことが多い研修会です。 | 年前は膵・乳腺等の"内分泌腫瘍"、2年前は

"悪性リンパ腫"をテーマで行っており、最近行っていない分野でなおかつ皆の興味を引くテーマ…、は見つけることができなかったため今回は最近行っていない分野を開催しよう!出来ることなら内容を充実させて、興味がない分野に興味をもってもらうきっかけとなる研修会を!と意気込み、技師の研修会にしては比較的まれな"軟部腫瘍"をテーマと決定しました。

マニアックな分野なため講演を依頼できる先生 が限られていましたが、それでも金沢大学医学 部附属病院の野島孝之先生や岐阜大学医学部附 属病院の宮崎龍彦先生、酒々井夏子先生、中東

東海中央病院 日高祐二

平成29年度 中部圈支部病理細胞検査研修会

テーマ

「微 底 政 略 ! 較 部 腫 瘍 」「デスミン抗体免疫染色サーベイ」





日時:平成30年2月17日(土)·18日(日) 場所:岐阜大学医学部(記念会館·实習室)

直催:一般社团法人 日臨核 中部圈支部臨床检查核師会 但当:一般社团法人 岐阜最臨床检查核師会

遠総合医療センターの橋本奈々子先生、癌検有明病院付設細胞検査士養成所の古田則行先生と全国でも 名の知れた先生方を講師として迎えることができました。病理・細胞診をはじめ、免疫染色や遺伝子検 査、画像診断についても学び、今後の業務へと繋がっていく、また興味を持って取り組むきっかけにも なった研修会であったと感じました。

免疫染色の精度管理調査では、調査対象をデスミン抗体とし 74 施設に参加していただきました。染色機器での違いや賦活法での違いがあることが周知でき、標準化の一助になったと思います。

テーマの一つに免疫染色精度管理を掲げるようになったため開催時期が 2 月頃になることが多くなっ



ています。岐阜県ではこの時期に積雪することが多いため心配でしたが、 心配していた以上に北陸地方で大雪が降りました。鉄道が不通となってい る個所もあり、講師の方や受講者の方が無事たどりつけるのかと心配して おりましたが、開催 2 日前頃より鉄道が通常運行となりホッとしたのを思 い出します。(当日も雪が降っていましたが…)

最後になりますが、好評を得るなかで研修会が無事終了できましたこと は準備から研修会当日までご協力いただいた実務員の皆様、会場をお借り しました岐阜大学医学部附属病院病理部の皆様のご協力のおかげです。改 めて感謝する次第です。



第67回 日本医学

シンポジウムX

「臨地実習の在り方~求められる臨地実習とは~」を企画して。

岐阜医療科学大学 高崎昭彦

第67回日本医学検査学会に参加した。静岡県臨床検査技師会主催で行われ、公開講演、 教育講演、招待講演、基調講演をはじめ、学会長講演、シンポジウムなど盛り沢山の企画 が用意され、充実した3日間であった。私が司会を担当させていただいたシンポジウムX: 「臨地実習の在り方 ~求められる臨地実習とは~」は臨床検査技師の卒前教育において 重要な意味を持つ臨地実習について、日臨技、養成校、受け入れ施設、若手技師、学生の 5者の代表をパネリストにお迎えし、 I. 実習期間、 2. 実習内容、 3. 実習を受ける施 設数、4. 実習指導者、5. 学生の"質"の担保、の5つのテーマについて議論した。シ ンポジウムに先立ち、横地常広先生(日臨技副会長)より「多様なニーズに対応できる臨 床検査技師の育成」というテーマで基調講演をいただいた。臨床検査技師に必要なコンピ テンシー、現場が求める技師の在り方、そして最後に現在検討されている臨床検査技師教 育カリキュラムの見直し案(総合臨床・臨地実習の導入など)について、教育協議会側と の調整状況、今後の展望なども含め御講演いただいた。養成校における実習前 OSCE 試験 の重要性、受け入れ側施設の充実、指導者の育成についてを特に取り上げられ、他職種で 行われている臨地実習コアカリキュラムの策定が急務であり、教育側との調整後、日臨技 として取り組んでいきたいとの話であった。その基調講演を基に上記の5つのテーマにつ いてパネルディスカッションを行い、それぞれの立場からの活発な意見が出された。未来 の臨床検査技師を育てるという意味では、どの立場も同じ方向を向いていると強く感じた。 しかしそれぞれの立場からだけの意見も多く、やはりこのような議論を重ねた上で、教育 カリキュラム策定、臨地実習指導者養成など具体的な方向に一歩を踏み出すべきであると いう結論でシンポジウムをまとめさせていただいた。学生さん2名、新人技師2名もパネ リストとして壇上に上がり立派に自分の意見、実習に対する意気込み、要望を述べていた のが印象に残った。今回の企画は学生も交え、技師会、実習施設、養成校の代表者による 議論の場を作るという初めての試みでもあった。今後、支部学会等でもこのような企画が 充実し、臨地実習の在り方を再考する機会となり、よりよい臨床検査技師育成に繋がるこ とを期待する。

	氏名	施設名	演題種別	演題タイトル				
座長		医療法人清光会 岐阜清流病院	一般演題	ブランチラボから自主運営転換後の生化学精度管理構築の取り組み				
	森 さゆり			even check法を用いたリアルタイム精度管理法による総蛋白(TP)分析エラーの検出				
				Cobas8000導入によるTAT及びメンテナンス時間の短縮効果				
司会	高崎 昭彦	岐阜医療科学大学	シンポジウムX	臨地実習の在り方~求められる臨地実習とは~				

検査学会◎浜松

	一般演題発表者				★=筆頭発表者			
分	定題 1 / 1 』	施設名				施設名		
野	演題タイトル	発表者	発表者	野	演題タイトル	発表者	発表者	
微	血液培養から	岐阜市民病院中央検査部 ★ 法雲 智美 宮田 雄次			当院で経験した胆管内乳頭状腫瘍(IPNB)の一例	大垣市	民病院	
生	<⊳Tsukamurella tyrosinosolvens					★ st 峡		
物	検出した 例	深川 富法	武藤 敏弘			岐阜県総合医療センター		
免		岐阜大学医学部附属病院				★ 村瀬 右佳	佐伯 茉紀	
	ラテックス免疫比濁法による	★ 林 圭織	大森 由佳里		高濃度乳腺内に発見された非腫瘤性病変の一例	矢嶋 あかね	青木 美由紀	
2 血	ブナノへ元及に周辺による 可溶性IL-2受容体測定試薬の検討	中村 里奈	古田 綾子			大塚 真子	長屋 麻紀	
清	1761年 2天分下四尺列朱沙顶01	石田 秀和	古田 伸行			仲村 純奈	奥田 清保	
111		石田 真理子	野久 謙			岐阜県総合医療センター		
	皮下出血時に	岐阜市民病院 中央検査部		4		★ 灶 湃	佐伯 茉紀	
血	ループスアンチコアグラント陽性低プロトロンビン血症を	★鴻妣	木下 聖次郎		粗大石灰化に隣接した乳癌の一例	矢嶋 あかね	青木 美由紀	
液	呈した一例	横山 裕子	乾 ゆう			大塚 真子	長屋 麻紀	
	22010 14	野村 貴丙	榊間 利政	4		仲村 純奈	奥田 清保	
臨		岐阜県総合医療センター		4		岐阜県総合]	医療センター	
床		★ 映 美優	仲本 知代	生 理	末梢動脈疾患(PAD)におけるABI,TBIの比較検討	★ 餅	菜月	
化	生化学検査室における業務効率化の検討	森晴雄	渡邉 庸歌			森 晴雄	中島 由佳	
学		野口真由美	福岡玲			所 広佳	奥田 清保	
		安藤航平 奥田 清保		4	当院における 非心臓部手術前心エコー検査の現状と有用性について	大垣市	民病院	
		大垣市民病院		4		★ 後藤 繁優	須佐 知子	
	当院における	★強光	石川恵理		別の城中 1 相間のニュー	北洞 久美子	橋/口 由美子	
	抗PD-LI抗体(22C3)染色の運用と検査成績	奥田 清司 吉田 知代 浅野 敦 井筒 萌香		-	運動耐容能と腎機能障害、自律神経活性の関係について	大垣市民病院		
病				-		★ 詠	明美	
理		児玉 千里 大角 沙織		-		杉田 文芳	田畑 明里	
	占私徳州は翌フラー「トル、こ)。の	株式会社 東海細胞研究所		411		神谷 嘉彦	石田 優人	
	自動薄切装置スマートセクションへの 生検検体の適応条件の検討	★大鹿均		-		岡田 浩司	日比 敏男	
	土怏怏中の趣心米什の快到	川口 阿珠沙石川 裕子	奥田 育己 牛丸 一樹		当センターにおける 臨床検査技師の心臓リハビリテーションへの関わり		医療センター	
細		株式会社メディック岐阜				★ 小路 達也	佐伯 茉紀	
胞	アスベストを認めた原発性肺線癌(乳頭型)の 症例	田村 智子				所 広佳	長屋 麻紀	
/10		社会医療法人 蘇西厚生会 松波総合病院		1		白井 菜月	森 晴雄	
		★ 神谷敏之		┨		中島 由佳	奥田 清保	
	当院で経験した心臓血管肉腫の1例	齊木 初音 横本 あゆみ		1	Sternheimer染色の検討 ~S染色液の改良について~	岐阜大学医学部附属病院		
		第田 千晶 青木 幹根 大垣市民病院		- 般		★ 三浦		
						仲本 賢太郎	太田 浩敏	
	RSV感染後に	★ 石郷 景子		╁		石田 真理子	野久謙	
生	無呼吸発作を起こした乳児にPSG検査が	中島 直美 服部 万奈代 澤村 聖子 日比 敏男 岐阜県総合医療センター ★ 森 晴雄 中島 由佳		1	輸血部技師による輸血院内監査の取り組みについて		医療センター	
理	有用であった 例			チーム医療		★ 福岡 玲	仲本知代	
						田中美優	渡邉 庸歌	
						野口真由美	川嶋文恵	
	心筋梗塞患者の腎機能は運動耐容能と関連する	小路達也				安藤航平	奥田 清保	
	THE PARTY OF THE P	所広佳	佐伯 茉紀					
		白井 菜月	奥田 清保	1				
		日月 本月	V- 41m	J				

施設紹介

医療法人社団 清光会 岐阜清流病院

平成30年4月1日から「医療法人清光会 岐阜清流病院」としてスタートしました。(旧岐阜中央病院)病床数372床 内科・整形外科・リハビリテーション科・脳神経外科・緩和ケア科など今までの診療科に内科医師が2名から6名に増え、臨床検査技師7名の女性で力を合わせで取り組みが始まりました。

4月2日に理事長の循環器内科 名和隆英医師(39歳)、院長 整形外科 菅哲徳医師(43歳)から5つの目標が伝えられました。①ありったけの心遣いが出来る病院になる。②地域に根差し愛される敷居の低い病院になる。③あそこで治療すると元気になれるというイメージが出来る病院になる。④患者さんから信頼・愛される病院になる。⑤職員が安心して学べる働きたい病院になる。この目標に向けて、接遇・業務改善・チーム医療への取り組みや話し合いに、全職員が忙しく動いています。

平成 29 年 6 月 19 日の民事再生申請から今日まで、多くの事がありました。物流が困難になり、保守契約が無くなり、一時期は検査室の維持さえも危うい時期もありました。しかし、どんな時も決して臨床や患者さんへの検査の質を落とすことなく、モチベーションを維持し、自己研鑚に努めてきました。不安や人員不足の中でもチーム医療として病院機能の維持や病院機能評価審査に取り組んだ看護部やコメディカルスタッフ。どんな時も臨床検査技師を必要として守ってくださった医師。さらに、臨床検査室が病院に必要であることを基本から考えさせられる時に、知恵や経験を伝えてくださった全国の先生方やメーカーの方々。様々な方々の協力があってこそ、新体制「岐阜清流病院 臨床検査課」の現在があります。心より感謝申し上げます。

これからも、多くの方々に助けられ、新たな5つの目標が出来るだけ早く現実のものとなり、 「地域で最高の病院」となれるよう、スタッフ全員で考え、行動し、取り組んでいきます。



今回、岐阜清流病院の特徴であるチーム力のイメージアップのため、新ユニフォームは医療技術部で同じデザイン色違いとしました。臨床検査課は情熱が紫です。

検体検査や生理検査等をするだけでなく、患者さんへの検査説明相談や血液以外の直接検体 採取を行うなど、どんな時も素敵な笑顔でアク ティブに病院中を駆け回っていきます。

臨床検査課 技師長 森さゆり

発行所(一社)岐阜県臨床検査技師会

発行責任者 兼子 徹

〒500-8384

| 岐阜市藪田南3 丁目5 番地10 コスタ岐阜県庁前603 号 | TEL 058-275-5596 FAX 058-213-0220

編集者 E-mail 高崎 昭彦 松浦 康博 giringi-office@giringi.jp 種村 久子